

# 10 城山横穴群の特徵

九州を代表する横穴群

九州で200を超える横穴群はわずか4件。横穴墓222基、墳丘12基がある城山横穴群はその中で密集度が最も高く、九州横穴群の代表的存在です。



九州で200を超える横穴群はわずか4件。横穴墓222基、墳丘12基がある城山横穴群はその中で密集度が最も高く、九州横穴群の代表的存在です。

地域的特徴を示す史跡



横穴墓に伴う墳丘の地域特徴を顕著に示す史跡。来、筑前や豊前地域で横穴墓に伴う墳丘が数例知られていましたが、12もの墳丘がある城山横穴群はその地域的特徴を顕著に示す重要な史跡です。

円筒埴輪片が出土



他の墳丘との階層差を示す遺物。丘に樹立されたと思われる円筒埴輪片が出土。これまで横穴墓の墳丘上での埴輪出土例は近隣でも少なく、地域的に見ても特色ある事例です。

遠賀川流域特有の石組



羨門部にも示される地域的特徴。穴墓の入口である羨門部に架けられた石組の構造も遠賀川流域に見られる地域的特徴。ここでも城山横穴群は代表的な事例に挙げられます。

群の構成は数種類



水平方向に5〜6段にわたる重層的な構築も特徴。構造では平坦面を共有する墓群、大型横穴墓や墳丘でまとまりを持つ群、それぞれが墓道を共有する群など、いくつかの群構成が想定されます。



お供えのカタチを発掘

当時の食物供献儀礼を想定させる遺物が出土

墳丘での祭祀行為をうかがわせる須恵器大甕や短頸壺などの遺物が城山横穴群から多く出土しました。なかでも坏の中に納められたままの状態出土したハマグリは、墳丘で食物をお供えした儀礼を物語る貴重な発見だといえます。

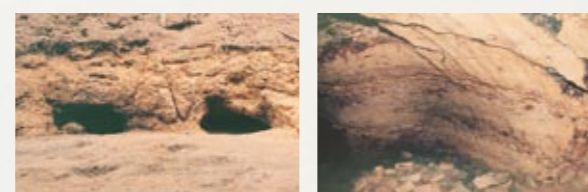


横穴墓からたくさんのお供え品を発見！その後CTスキャンで中の存在を確認して土を取り除きました

2つの地域の特徴を示す

遠賀川流域と周防灘沿岸の特徴をあわせ持つ

横長の玄室が多い傾向が遠賀川流域の特徴である一方、ドーム形の天井の傾向が周防灘沿岸地域の特徴と一致しています。それらの特徴は、両地域の接点に位置するという地域性を表しています。



▲横長の玄室が特徴の城山横穴群 ▲数多く見られたドーム形の天井

地域間交流の可能性も

飯塚市池田横穴墓群に似た出土品

城山横穴群から出土した金銅装馬具は、被葬者の階層的な優位性をうかがわせる貴重な資料。また、須恵器四耳短頸甕は、類似例が出土した飯塚市池田横穴墓群とともに、地域間交流や地域的特性を予想させる重要な資料となっています。



次代に誇れる史跡に

国の史跡に指定された「城山横穴群」は、横穴墓が濃密に分布することで知られる遠賀川流域の遺跡の中でも、その地域的特性を顕著に示す史跡として代表的な存在です。その規模や密集度は全国的にみても屈指で、わが国を代表する横穴群として重要な価値を示しています。「城山横穴群」は現在調査中で整備も進んでいないため、まだ一般公開できませんが、今後さらに調査研究、整備を進め、地域の歴史の解明に努める一方、地域にとって誇れる存在の史跡となるよう取り組んでまいります。(福智町教育委員会)



横穴墓の葬送儀礼のイメージ。残された史跡がこの地域で営まれた約1400年前の生活水準の高さを物語っています。

郷土史もぬりかえる

田川地域の横穴墓の築造時期を早める

城山横穴群の始まりは6世紀前半で、田川地域では最古。これまで6世紀中頃とされてきた田川地域の横穴墓の初現時期をさかのぼる結果をもたらしました。また築造のピークは遠賀川流域の他の事例と比較すると遅く、地域的動向とは異なる側面も示しています。



▼被葬者を安置する「玄室」の入口「玄門部」

長年に渡る展開を残す

北側から南側へと横穴墓を展開

6世紀中頃まで北側の丘陵が主体の横穴群。やがて6世紀後半からその数が増えると、南側を含む丘陵全体へと展開しながら、7世紀前半まで造られ、7世紀後半以降の追葬も想定されます。このような変遷の過程を追うことができる史跡は大変貴重です。



▼開始からの築造の過程が残っている横穴群